

教えてください、あなたのことを。②7

北海道紋別郡 渡来和夫 さん（高校教師、遠軽9条の会事務局）

つなげるつなげる会員さん

Q 差し支えなければ、年齢、出身地を教えてください。

A 埼玉県所沢市出身の47才。23歳で北海道の高校教員に採用され、現在に至る。

Q ごみ問題に関心を持つようになったのは…？

A 大学4年生の時に自主ゼミで取り上げた『ごみとリサイクル』寄本勝美著（岩波新書）での学習がきっかけですが、それ以前から環境問題や公害問題には関心を持っていました。

高校3年生の時にアルバイト先のラーメン屋の店主から、レイチェルカーソンの『沈黙の春』や有吉佐和子の『複合汚染』を薦められて読んだことが、そもそもの始まりと思っています。その店主というのが、ごみ・環境ビジョン21の理事長・田浪さんです。



Q 「ごみ・環境ビジョン21」に入会して下さったきっかけを教えてください。

A 10年ほど前に、その田浪さんが北海道の私の所を訪ねて下さって、さまざまな話をしていく中で、ごみかんの理事長をしていることや、その活動について紹介され、「応援してくれないか」と入会を勧められたのがきっかけです。

Q ごみ問題に関わること以外に、趣味や生きがいは何ですか？

A マラソン、スキー、サイクリングといったスポーツを通して広大なオホーツクの自然を楽しむことです。サロマ湖100kmウルトラマラソン、湧別原野クロスカントリースキー（85km）、オホーツクサイクリング（212km）などに挑戦しています。

また、転勤で19年前にオホーツク海に近い遠軽町で暮らすようになりましたが、この町では憲法を考える学習会や集会が開かれておらず、地域の人に声をかけ、5月3日に憲法集会を実施。その後、全国的に9条の会を作ろうという運動が広がる中で、遠軽9条の会を起ち上げました。10年余、5月3日の憲法集会だけは最低でも開催してきましたが、昨年は戦争法反対の集会や学習会、街頭活動、請願活動で大忙しでした。

Q 特筆すべき近況があれば、教えてください。

A 湧別高校の社会科教師になって4年目。この3月に卒業生を送り出します。高校生は3年になると大人になるんだなあ、と感じる日々です。

今年は18才選挙権がスタートしますが、有権者である彼らと授業の中で世の中の事を語り合えるのは、社会科教員としてとても幸せだなあと感じています。

Q ごみかんに期待したいこと、あるいは提案したいことをお聞かせください。

A 北海道では感じるができない首都圏での先進的な取り組みを、会報を通じて学ぶことができ、感謝しています。今後も引き続き丁寧な情報発信を期待しています。